

WAKAYAMA AZALEA ROTARY CLUB



Weekly Report

VOL. 14 No. 11 TOTAL 573 平成23年10月3日 第591回例会

[例会日] 毎週月曜日 12:30~13:30

[例会場] 和歌山市湊通り丁北2-1-2 アバローム紀の国

[事務局] 和歌山市雑賀屋町52 南方ビル2階 (〒640-8249)

TEL073-435-3470/FAX073-435-3472

E-mail: wa-az-rc@naxnet.or.jp

会長/後和 信英 [会報委員] ○宮本 和彦
副会長/西田美恵子 ○南方 孝一 田邊 和喜
幹事/小形みちる 足立 聖子 松本 博



2011-12年度
国際ロータリーのテーマ

こころの中を見つめよう 博愛を広げるために

Reach Within to Embrace Humanity

RI会長 カルヤン・バネルジー

2011-12年度
アゼリアロータリーのテーマ

おもう
『ロータリーの原点を回想』

＜本日の例会＞

- 第591回例会 10月3日(月)
- ☆ガバナー公式訪問
- 国際ロータリー第2640地区
ガバナー 大澤 徳平様
- ☆誕生会

＜次回のお知らせ＞

- 第592回例会 10月17日(月)
- ☆新入会員歓迎会 (夜間例会)
- 場所: アバローム紀の国 11F ツインバード
- 時間: 18:30 ~ 20:30
- ★台風12号災害街頭募金活動 (雨天決行)
- 場所: J R 和歌山駅近鉄百貨店前
- 時間: 16:00 ~ 17:30

＜前回の例会記録＞

- ロータリーソング R-O-T-A-R-Y
- ゲスト紹介 和歌山大学 学長 山本健慈様
- ビジター紹介
- 出席報告 会員数38名 出席免除3名
本日の出席 (9/27) 24/36名 66.66%
前々回修正出席 (9/5) 30/38名 78.94%
- メイクアップ 役員及びクラブ行事へ 1名

＜四つのテスト＞

言行はこれに照らしてから

- I. 真実かどうか III. 好意と友情を深めるか
- II. みんなに公平か IV. みんなのためになるかどうか

●市内9ロータリークラブ例会情報

クラブ名	日時	内容
和歌山北	10月3日(月)	クラブフォーラム「米山月間にちなんで」
和歌山	10月4日(火)	卓話「日宮宮と和歌山の歴史」
和歌山サンライズ	10月4日(火)	
和歌山東南	10月5日(水)	外部卓話「電車のあれこれ ~南海電車の歴史~」
和歌山西	10月5日(水)	卓話「愛すメール事業」について
和歌山東	10月6日(木)	クラブフォーラム「職業奉仕」
和歌山城南	10月6日(木)	【文部科学省調査「職業奉仕」に関する調査】について
和歌山南	10月7日(金)	ガバナー公式訪問
和歌山中	10月7日(金)	クラブフォーラム①クラブフォーラム②第2回D.M.テーマ発表

●会長報告

会長 後和信英

こんにちは。ただ今、ご紹介いただきました、和歌山アゼリアRCの後和です。宜しくお願いします。本日は、市内3RCの合同例会という事で、大勢のメンバーの方々にご出席頂きありがとうございます。私自身大変うれしくも思いますし、又、緊張もしております。暑い夏から解放され天候の方も朝晩は、秋らしく夜もよく眠れるようになってきました。しかし、紀南の方々におかれましては、9月初旬の台風12号の大きな被害で大変、心配ですが、一刻も早い復興を心より願います。

さて、会長をお受け致しましてから3ヶ月が過ぎようとしています。当初は不安でいっぱいでしたが、役員、メンバーの方々のご協力で少しずつ、軌道に乗ってまいりました。今年度は、クラブのテーマ「ロータリーの原点を回想「おもう。」」です。親睦を中心の運営を心掛け、我「われ」が、我「われ」がの「が」のないクラブにしてゆきたいと思っています。これからも、自分が提示したプログラムを皆さまのご協力の元に、慎重にこなしてゆきたいと思っています。先程も和歌山RCの榎畑会長が今年、創立75周年のお話をされていましたが、本当におめでとうございます。そして、来年4月28日の75周年記念事業が、成功裏に終わる事を心よりお祈りし、私の挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。



● 幹事報告

幹事 小形みちる

皆様こんにちは。アゼリアRCの小形です。本日はこうして3クラブ合同例会を開催出来ました事、そして、和歌山RC様におかれましては、ご準備を頂きました事を心から感謝申し上げます。それでは、幹事報告をさせていただきます。前回例会時にお願ひ致しました台風12号の募金額が18,963円でした。有難うございました。次回例会10月3日(月)はガバナー訪問です。皆様のご出席をよろしくお願ひ致します。以上です。



● 外部卓話

国立大学法人 和歌山大学 学長 山本健慈 様

<和歌山大学は、生涯 あなたの人生を支援します>
これは、和歌山大学長として学内外に発信しているスローガンです。

<あなた>とは、学生であり、地域住民、社会です。加えて、和歌山大学教職員への呼びかけでもあります。

<学生の生涯を支援する>という時、二つの<生涯>の意味があります。入学する学生たちは、これまでの育ちの中で多くの課題を背負ってきています。

大学は、彼ら彼女らの育ちへの洞察なしには役割は果たせないことを意識しています。これは過去の時間としての<生涯>です。しかし、大学は、彼らの人生の過去の時間を考えるだけでは済みません。当然彼らの未来の<生涯>をも視野に入れなければなりません。卒業後の挫折、転換等を視野に入れた<生涯の支援>もまた大学の課題なのです。

<地域および地域住民の支援>、すなわち地域の持続的発展を担う人材の養成（「生涯学習」）にコミットすることは、地方国立大学の最重要課題です。ここで必須なことは、大学、とくに研究者が、地域の苦悩を深く認識し、その苦渋を共有するという思想、姿勢を確立することです。できあいの研究成果で、困難に直面する住民・地域をエンパワメントすることはできません。

これらの課題は、日本の大学にとっては、きわめて新しい創造的・革新的な課題です。これらを実現するためには、教職員が過去の教育、研究、業務の方法を否定し、新たな方法の探究に自らの人生の意味を見出していかなければなりません。その意味をこめて、学生、地域とならんで、教職員の「人生を応援します」と呼びかけています。



【略歴】

- (氏名) 山本 健慈 (やまもと けんじ)
- (生年月日) 1948(昭和23)年8月29日生
- (本籍地) 滋賀県
- (最終学歴) 1977(S52).3 京都大学大学院教育学研究科博士課程単位修得退学
- (学位) 教育学修士(京都大学)
- (専攻) 教育学・社会教育・生涯学習論

- (経 歴) 1977(S52).4 和歌山大学教育学部助手
 1978(S53).4 和歌山大学教育学部講師
 1981(S56).4 和歌山大学教育学部助教授
 1995(H7).4 和歌山大学教育学部教授
 1998(H10).4 和歌山大学生涯学習教育研究センター教授
 ♪ 和歌山大学生涯学習教育研究センター長(2008.3 まで)
 2004(H16).4 和歌山大学評議員 (2009.3 まで)
 2007(H19).4 和歌山大学副学長 (2009.3 まで)
 2007(H19).10 和歌山大学サテライト部長 (2009.3 まで)
 2008(H20).4 和歌山大学教育学部教授
 2009(H21).5 和歌山大学副学長
 2009(H21).8 和歌山大学長

和歌山大学からの発信

I 基本メッセージ

和歌山大学は 生涯 あなたの人生を 応援します
 Wakayama University wants to support you throughout your life

3つのあなた

- ①学生 在学期間だけでなく、卒業後もでもなく、入学までの人生を視野に
- ②教職員
- ③地域・社会

II 和歌山大学7つの行動宣言(2011-2013 行動宣言)

III WTP (和歌山大学タイ学生派遣プログラム)

IV 和歌山大学型グリーンイノベーションプログラム



和歌山・タイフィールドプログラム<WTP>概要

和歌山大学では、本年度より全学部1年生を対象に履修事業を開催します。「国際開発とは?」「国境とは?」「多様な社会とは?」をテーマに、異なった世界で、様々な人とふれあい、その文化や社会環境に身を置き、「人」として大切なことは何かを考えるきっかけを作ります。

◆日 程 : 平成24年2月、3月(3週間)

◆参加資格 : ①全学部1年生
 ②授業科目「JAPAN STUDY」または「異文化を知る」を履修していること
 ③TOEIC 500点相当程度の英語力
 ④事前研修・報告会への参加、レポートの提出、国際交流活動への参加(在学中)等

◆定 員 : 20人 (※定員を超えた場合は、成績上位者より選抜)

◆参加費 : 送航費、滞在費は大学負担、日本国内の移動費、保険料、食費等は自己負担

◆募集期間 : 事前研修にて通知

プログラムの内容

国際開発について学ぶ

- ・東北部の農村にホームステイしながら地域の学校で簡単な日本語や日本文化を教える
- ・地域のボランティア活動に参加する
- ・村人の暮らしを体験しながら、国際協力について本当に必要なものは何かについて考える

国境について学ぶ

- ・ラオスやミャンマーと国境を接する地域に行き、山岳民族や国民党の子供の暮らしを調査する
- ・国境を越えてくると、異なった文化や宗教の人々ながら国境とは何かについて考える

多様な社会について学ぶ

- ・チャイナタウンを調査し華僑の歴史を学ぶ
- ・インド人街に行きシーク教徒の人々と触れる
- ・アユタヤ近郊で伝統的なイスラム教を訪問して村人と触れることによって、異なった文化や宗教の人々が共生する社会について学ぶ
- ・上記の体験を、タマサート大学やランシット大学などで、同世代の学生と異なった意見交換する

事前研修

事前研修では、異文化(タイの文化)を学ぶことにより、自文化を見直し、広い範囲で「日本・日本語」を学び、考える。

1. 「JAPAN STUDY」金曜2限
 - ・前期2単位
 - ・全学部全学年を対象に開講
 - ・受講登録締切 4/15(金)
2. 「異文化を知る」金曜2限
 - ・後期2単位
 - ・全学部全学年を対象に開講
 - ・受講登録締切 10/11(火)

英会話クラス

- ・出発まで、毎週月曜日に開講予定

事後研修

- ・事後報告会
- ・次年度のプログラム企画等に協力

■問い合わせ先
 和歌山大学 国際教育研究センター
 電話 (073)457-7524
 E-mail kokusai@center.wakayama-u.ac.jp



